

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成27年3月27日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科

職 名・学 年 准 教 授

氏 名 大 山 修 一

助 成 の 種 類	平成26年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 研究成果物刊行助成		
研 究 成 果 物 名	西アフリカ・サヘルの砂漠化に挑む —ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防—		
著者・編著、作成者全員の所属・職 ・ 氏 名	京都大学 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 大山修一		
学術書・論文集等について	出版社・印刷会社等名	発行年月日	配 布 先
	昭 和 堂	2015年3月31日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。合わせて、刊行・作成された研究成果物をご提出(ご提示)下さい。		
会 計 報 告	事業に要した経費総額	2,654,208 円	
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 著者負担・売上見込 1,654,208 円	
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	組 版 代	1,232,600	500,000
	製 版 代	542,000	220,000
	刷 版 代	149,000	60,000
	印 刷 代	169,000	70,000
	用 紙 代	200,000	80,000
製 本 代	165,000	70,000	
消 費 税	196,608	0	
合 計	2,654,208	1,000,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 学術図書の出版を支援する貴財団の制度に柔軟性があり、非常に助かりました。ふかく感謝しております。		

西アフリカに位置するニジェール共和国は、サハラ砂漠の南縁国であるサヘル地域に位置づけられる。サヘルとは、アラビア語で、「縁や海岸、境界、沿岸、岸辺」などを意味する。このサヘル地域は北緯 15 度を中心としており、南北の幅が 200~400km ほどあり、セネガルやモーリタニア、ブルキナファソ、マリ、チャド、そしてスーダンといった国々にまたがっている。サヘル地域を広くとらえれば、これらの国々にガーナやベナン、コートジボワール、ナイジェリア、カメルーン、エチオピアがふくめられることもある。

サヘル地域は、中学校の社会科や高等学校の地理の教科書で、かならず取り上げられる砂漠化の問題を抱えている。砂漠化とは、大規模な干ばつ、あるいは土地が酷使されることによって、土地の生産性が失われることである。人口圧力の高まりが、耕作地の拡大や家畜頭数の増加、薪の採取や木炭生産の拡大を引き起こす結果、地力の低下や生育する植物の減少が顕著となり、不毛な土地が発生する。本書では、この土地の生産性が低下する土地の荒廃を砂漠化と定義し、この砂漠化によって、不安定な食料生産や飢餓、紛争などの問題が生じている。筆者が 2000 年以降、10 年以上にわたって農村に住み込み、農耕民と牧畜民の暮らし、生業、環境利用を調査し、砂漠化と飢餓、紛争に関して記した。

本書、『西アフリカ・サハルの砂漠化に挑む——ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防』（昭和堂 発行 2015 年 3 月刊）は、11 章から構成される。まず、第 1 章ではサヘル地域における砂漠化問題の背景と問題の所在を探るところから記述した。ニジェール共和国の国土における 4 分の 3 がサハラ砂漠であり、残り 4 分の 1 には人口が集中する。サヘル地域における降雨量の大きな変動、貧栄養土壌という厳しい自然条件を提示したうえで、このような自然条件にあるにもかかわらず、高い人口密度、きわめて高い出生率、人口増加率を示し、20 年で人口が倍増する人口爆発国であることを述べ、ニジェールでは栄養不足や飢餓の問題が慢性化し、低体重の子ども、栄養失調が多く発生する現状を検証する。

第 2 章では、われわれ日本人にはなじみのうすい、西アフリカやサヘル地域、ニジェール共和国の具体的なイメージを持つことができるよう、気候や土壌などの風土、民族の分布などを説明した。第 3 章では、本書が取り扱うハウサという、西アフリカ最大の民族、そして本書の中心的な舞台となるダンダグン村の自然、人びと、生業や暮らし、人びとが経験してきた干ばつについて詳述した。

第 4 章では、ニジェール共和国の南部に居住するハウサの農村の暮らしぶりや農作業の実際、牧

畜民のフルベヤやトゥアレグの家畜放牧、農耕民と牧畜民の相互の結びつきと季節による関係性の変化をみていきます。第 5 章では、村に居住する職能集団や鍛冶屋の活動、若者の都市への出稼ぎ、住民のライフヒストリーを紹介したうえで、第 6 章では、ハウサが人生をあゆむなかで「成功」に対する価値観とそれを裏付けている人びとの論理を検討していきます。そして、どうして、ニジェールで世界第一位のスピードで人口爆発が起きるのか、その原因を探っていきます。第 7 章では、農村における食料不足の原因、砂漠化のメカニズム、そして住民が自主的におこなっている砂漠化への対処方法を記述します。人びとは環境を破壊すると同時に、環境を修復する現状を理解し、その理解のうえで、圃場実験を実施し、その対処方法の有効性を科学的に検証します。

第 8 章では、人口が急増する農村社会において農耕民の畑が拡大し、牧畜民の家畜放牧が行き詰まりつつある現状と、農耕民と牧畜民が衝突する紛争の原因をみていきます。また、伝統的な慣行によって農村内における経済的な格差が拡大していく現状を理解する。農耕民が多数派を占める社会において、少数派の牧畜民が生きにくい状況にあることを示していく。

第 9 章では、日常生活のなかで環境を修復するハウサの人びとの在来知識と日常的な実践を明らかにし、荒廃地において実施した圃場実験によって、緑化の有効性と安全性を検証する。第 10 章では、わたしが 2003 年以降にすすめてきた荒廃地の環境修復を、緑化とともに、地域紛争の予防につなげていこうとする試みを紹介し、地域の安定をめざしていく取り組みを解説した。

さいごの第 11 章は、本書の結論とまとめにある。西アフリカのサヘル地域において、ここ 60 年ほどの道路インフラや市場システムの整備、都市人口の増加によって、環境への負荷が大きくなっている現状を示したうえで、人口増加や都市の巨大化にともなって将来、砂漠化問題がさらに深刻になっていく危険性が高いことを示す。これからの都市文明の興隆する時代に、地球環境の持続性と人類の生存に必要な諸条件を提示し、筆者の取り込みの必要性和意義を考察した。